

「一陽来復」「共存×共栄」

山形商工会議所青年部

第33代会長 村岡達啓 氏



令和4年度山形商工会議所青年部第33代会長を拝命致しました。平成21年度に入会し先輩方から青年部の歴史や伝統、活動の意義、熱い想いを教わってまいりました。その伝統や想いを少しでもつなぐ

ことができると考えております。

令和2年・3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の中、青年部として何ができるのか、試行錯誤しながらの活動となりました。「ドライブスルー芋煮会」や「飲食店応援プロジェクトみらい飯」、「ペットボトルランタン」を実施して、微力ながら地域の活性化に貢献できたと実感しております。「ドライブスルー芋煮会」は、第26回ふるさとイベント大賞において最優秀賞として総務大臣表彰をいただくことができました。賛否両論はありますが、感染対策を実施しての大きなイベント開催に、多くの人々が経済活動再開への期待と希望を抱いたのではないのでしょうか。矢野秀弥会頭をはじめ山形市、地元企業、地域や青年部OBの方々の理解と協力に、あらためて感謝を申し上げます。

さて、新年度スタートにあたって、新しく第5期中期ビジョンを策定し、活動理念を「共存

×共栄」としました。青年部による経済活動の実践が、青年部在籍企業はもとより、地域社会の発展につながるの思いを込めています。地域の皆様と共に前向きな気持ちになってもらえるような活動を提案し、お互いに繁栄していければと考えております。SDGsへの取組みについても真剣に向き合う時が来ていると感じます。持続可能なより良い地域の未来のために青年経済団体としてどのように活動すべきか、議論と実践を重ねて参ります。

「一陽来復」。悪いことが続いた後に幸運が開けることを意味します。期待を込めた本年度の青年部のスローガンです。

新型コロナの社会への影響は大きく、感染拡大が収束したからといって直ぐに以前と同様になるわけではありません。通信技術の発展で情報の発信速度・拡散速度が早まり、時代の変革スピードは年々増しています。しかし、こうしたときだからこそ、基本に立ち戻り、足元を確認しながら一歩ずつ進んで行くことも大切であると考えております。私は建設業を営んでおりますが、建物を造るには、それを支える地盤、土台・骨組みが必要不可欠です。それらがしっかりしていないと、どんなに見た目が綺麗な建物であっても、ひび割れが起きたり、倒壊したりする恐れさえあります。

青年部を支える地盤とは、土台・骨組みとは何か。相手への思いやりと笑顔のあふれる組織であることです。それが会員相互の強固な結束を生み出し、地域貢献につながるのではないのでしょうか。これさえ忘れずにいれば、強靱で柔軟な活動ができると考えております。その上で、先代会長の基本方針を受け継ぎ「会員及び会員企業の資質向上を目指した学びの場の提供」と「青年部の魅力の周知と会員数の増強」を進めて参ります。

最後になりますが、今年こそは馬見ヶ崎川河川敷で、直径6.5mの大鍋・三代目鍋太郎による「日本一の芋煮会フェスティバル」開催を実現したいと思っています。会議所会員皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

(榮大建設㈱専務取締役)